

ECHIZEN

伝統の最先端を見せてあげる

越前和紙 日本でイチバン、世界でイチバン

越前打刃物 世界の食の、オモテナシを支える

越前草笄 伝統と創意と工夫の、あわせ技

【お車でのアクセス】



- 東京→東名・名神・北陸自動車道=約7時間
- 大阪→名神・北陸自動車道=約3時間
- 名古屋→名神・北陸自動車道=約2時間
- 富山→北陸自動車道=約1時間40分
- 金沢・加賀温泉郷→北陸自動車道=約1時間
- 芦原温泉→北陸自動車道=約40分

【鉄道でのアクセス】



- 東京駅→東海道新幹線・特急(米原経由)=約3時間20分
- 東京駅→北陸新幹線・特急(金沢経由)=約3時間40分
- 大阪駅→特急(湖西線経由)=約1時間40分
- 名古屋駅→特急(米原経由)=約1時間50分
- 富山駅→北陸新幹線・特急(金沢経由)=約1時間30分
- 金沢駅→特急=約1時間
- 加賀温泉駅→特急=約35分
- あわら温泉駅→特急=約25分

【伝統的工芸品 産地マップ】



○ 越前市・伝統産業観光のお問合せは

観光・匠の技案内所 (JR武生駅前センチュリープラザ1F)

〒915-0071 福井県越前市府中1丁目2-3 ☎ 0778-24-0655

(発行)一般社団法人越前市観光協会/福井県越前市府中1丁目2-3 ☎ 0778-23-8900



<http://welcome-echizenshi.jp>

Echizen Washi 越前和紙

ニッポンのお墨付き 伝統的工芸品

数ある伝統工芸品の中から厳しい基準をクリアし、経済産業大臣が指定したものを「伝統的工芸品」といいます。越前市では1976年に越前和紙、1979年に越前打刃物、2013年に越前筆筒が伝統的工芸品に指定され、いわばニッポンのお墨付きとなりました。

また、隣接する鯖江市では越前漆器、越前町では越前焼が指定されており、越前市を中心としたこの一帯は、伝統的工芸品の一大産地となっています。



あおい
越前和紙の女神・川上御前の女を
まとう、あおいちゃん。日本古来の紙
漉き技術に欠かせないトロロアオイ
のように、仲間をたすげる不思議な
存在。でも、暑いのはちょっと苦手。

伝統の最先端を 見せてあげる

手仕事のまち、越前市。ここには和紙、打刃物、筆筒と、三つの伝統的工芸品がある。越前和紙のはじまりは今からおよそ一五〇〇年前の古墳時代といわれ、それは想像もつかない遠い昔。越前打刃物は南北朝時代、そして越前筆筒は江戸時代から。どれもものすごく長い歴史があつて、技と心をずっと守り伝えてきているという。伝統って、とにかく古い。

それなのに伝統は、とっても新しい。時を超えて、技や心を受け継ぎながら、それまでにないやり方や考え方が取り入れられる。伝統的工芸品の産地や工房には新たな挑戦があふれていて、きまってるみんなを驚かせる。伝統はいつも進化している。

Echizen Uchi-Hamono 越前打刃物

世界の食の、**PM**
オモテナシをさえる



ちづる
黒烏帽子と白装束の神聖なコスチュームで古式料理に挑む、ちづるちゃん。カッコよくキメているけど、ややトントンカンなところが憎めない。越前打刃物の伝・千代輪国女の未満とも?

Echizen Tansu 越前筆筒

伝統と創意と工夫の、**PI0**
あかせげ



かんな
越前筆筒職人の娘、かんなちゃん。釘を使わずに木材を組み合わせる技術によって、カンナ削りは熟練の技。さらに漆塗りや飾り金具など、かんなちゃんの修行は今日もつづく。

さっそく産地を
訪ねてみよう!



和紙の里通り

パピルス館、卯立の工芸館、紙の文化博物館の3館を結ぶ全長230mの越前和紙の里のシンボルロード。街路樹が並ぶ心地いい遊歩道で、越前和紙のショップやカフェ、お食事処も点在。のんびりと和紙産地のまち歩きを楽しむ起点に最適で、紙の神様「川上御前」を祀る岡太・大瀧神社へは、片道1キロほど。



見て触って学んで、和紙の魅力を共楽！ 紙の文化博物館

越前和紙の発祥や歴史について学べる博物館で、皮地ならではの和紙も多数展示。2017年にリニューアルオープンし、和紙にふれる体験コーナーや書籍が閲覧できる和紙情報フィフフーを新設。特別展や企画展も開催している。

越前市新在家町11-12 ☎0778-42-0016/9:30~17:00
(入館~16:30)/火曜・年末年始休/大人200円(特別展開催時300円・卯立の工芸館との共通入館料)・高校生以下無料/ww.echizenwashi.jp

伝統家屋で、伝統工芸士の技を体験！ 卯立の工芸館

江戸時代中期の紙漉き家屋を移築復元。伝統工芸士が習ながらの道具を使って和紙を漉く様子や、屋外での和紙文干しなど、和紙が作られる一連の工程を見ることができ、全国で唯一の施設。2階では和紙にまつわる企画展を随時開催。

越前市新在家町9-21-2 ☎0778-43-7800/9:30~17:00
(紙漉き見学~16:00、入館~16:30)/火曜・年末年始休/大人200円(特別展開催時300円・紙の文化博物館との共通入館料)・高校生以下無料/ww.echizenwashi.jp

紙漉き体験で、越前和紙を実感！ パピルス館

スタッフのサポートを受けながら、手紙に紙漉き体験が楽しめる施設。押し花や切り紙、色水などで自由にデザインしたオリジナルの和紙は、茶の思い出にぴったり。館内の「和紙処えちぜん」では、さまざまな越前和紙や和紙のグッズを販売中。

越前市新在家町8-44 ☎0778-42-1363/9:00~16:00
(和紙処えちぜん~16:30)/年末年始休(体験料金)色紙料1枚500円/ww.echizenwashi.jp



1976年、伝統的工芸品(和紙)に指定

越前和紙



上/和紙を漉くニコラスさん(左)と村田さん(右)
下左/越前和紙のさまざまな小物雑貨(和紙屋・杉原商店にて、P6/やなせ和紙)
下右/製漉の裏(奥田製紙業)に保存される越前和紙の作品(P7)

日本アイチバン、
世界アイチバン

ニコラス・クラデイスさんは、越前和紙に魅せられたアメリカ人。高校で英語を教えるかわら、アーティリストとしても活躍している。そんな彼を見守る村田葉穂さんは、卯立の工芸館で越前和紙の技術や伝統などを紹介する職人。史上最年少で越前和紙の伝統工芸士に認定された逸材だ。

全国の和紙産地の中でも、ひととき歴史が深く、規模が大きい越前和紙の里・今立五箇。伝説では今から一五〇〇年ほど前、この地を流れる阿太川の上流に美しい姫が現れ、里人たちに紙漉きを教えたことにはじまる。姫は「紙祖神・川上御前」とあがめられ、今も大切に語り継がれている。

横山大観など日本画の大家が愛用し、ピカソも求めたといわれる越前和紙。アートとの相性が良く、和紙の工房から生み出される多彩な製品や作品には目を見張るものがある。さまざまな扱い手たちによる品種の多様さと、手漉き和紙の生産量で日本一を誇るこの地は、取りも直さず世界一の和紙産地なのだ。



赤い大車輪が印象的な作業小屋は今も現役



三田村氏庭園は、1338年創業の製紙工場
の庭園で、国指定の名勝(見学は要予約)



月1回不定期オープンの和紙アートの
ギャラリー・記憶の家(問合せは長田製紙所)



和紙づくりに欠かせない水、
手押しポンプの周辺も美しく管理されている



「岡太神社・大瀧神社」と祀された社務は、
冠雨和紙を使った横山大観が寄贈したもの



創業約150年の和紙問屋・杉原商店、
蔵のギャラリー「和紙屋」は毎月第4土曜オープン



紙漉きのようすをデザインしたマンホール蓋は
五箇のまちなか敷と所に設置されている



和紙の里通りから
岡太・大瀧神社まで
歩いて15分くらいだよ!

紙漉き工場が点在する
古いまち並みのエリア

越前和紙の里 今立五箇

越前和紙1500年の伝説を、今に語り継ぐ今立五箇。あちこちに紙漉きの工場が点在するこのまちには、昔ながらの、ちょっと懐かしい景色がある。お寺やお社、細い路地、看板、古井戸、蔵、卯立、それらの一つひとつに、ゆっくりと積み重ねられた時間を垣間見ることができる。

今立五箇は、かつての今立町岡本地区の、大滝、岩本、不老、新在家、定友の5つの集落のこと。古くから上質な越前和紙の産地として知られ、今もたくさんの人が越前和紙に携わっている。情緒ある古いまち並みには、そこかしこに和紙の産地の風情が漂っている。

誇りと心意気の「妻入り卯立」

軒を連ねた町家の両軸に卯立を上げる「平入り卯立」に対し、妻入り民家の玄関正面に卯立を立ち上げた「妻入り卯立」は、今立五箇ならではのめずらしい形式。まさに「うだつを上げる」風格ある建築様式で、紙漉き家の誇りと心意気を示すもの。今なお、この地域の一部の民家に見ることができる。



今立五箇の
まち並みに
おのびてね!

紙漉きの風景が
いいねー!



紙祖神 岡太神社・大瀧神社

今立五箇に紙漉きの技を伝えた川上御前、岡太神社・大瀧神社は、この川上御前を紙祖神として祀る社で、2019年には創建1300年を迎えた。山頂付近にある奥の院(上官)とふもとの里宮からなり、里宮の本殿と拝殿は国の重要文化財に指定されている。江戸後期の社殿建築の粋を集めて建てられており、複雑な屋根や精巧な彫刻が見もの。春には新札が執り行われ、御神体をのせた神輿が今立五箇のまちを練り歩く。

越前市大滝町23-10
☎0778-42-1151

成願寺は伎々成政(織田信長家臣、柴田勝家
と力)の菩提寺、山門の前に六地藏が並ぶ

今立五箇のまち並みを一望する秋葉山展望台、
絨毯瓦の屋根が美しい!

歴史ある和紙産地ならではのノスタルジックな風景が点在。
まちの中をのんびり歩くと、思わずシャッターを切りたくなる

2017年に国の登録有形文化財に指定された
西野家住宅の界隈は、風情あふれるまち並み

和紙の里通りは、越前和紙の里の
シンボルロード(95参照)



世界の食の、オモテナシを支える

赤熱した鉄を打つ力強い音、飛び散る火花。日本古来の火造り鍛造の熱気に包まれるタケフナイフビレッジは、越前打刃物の共同工房。伝統的工芸品の工房としてはきわめて珍しく、誰でも出入り自由な見学通路が設けられていて、熟練した職人たちの技を間近に体感できる。

伝統は今から約七〇〇年前、京の刀匠・千代鶴国安が名剣を鍛える水を求めてこの地に来住し、作刀の合間に近郷の農民のための鎌をつくったことがはじまりとされる。以来、「二枚広げ」や「廻し鋼着け」などの伝統技法を受け継ぎ、包丁や鎌などの製造にも越前打刃物ならではの特徴的な技が活かされている。

日本のみならず、欧米の著名なレストランで用いられるなど、海外からも高く評価される越前打刃物。その切れ味や使いやすさは和洋中の料理人に絶賛され、注文が絶えない。さらに、美しい刃文や卓越したデザインが愛用者を魅了する。越前打刃物は、世界の食のおもてなしを支えている。

品ぞろえバツグン、産地価格で販売中！ 越前打刃物会館

越前打刃物の工房が集まる刃物団地があり、世界に認められる高品質な打刃物製品を産地ならではの価格で販売、メンテナンスも受け付ける。製品に詳しいスタッフが手入れ方法なども丁寧に説明。事前予約すれば工房見学にも対応。

福前市池ノ上町49-1-3 ☎0778-24-5200/8:30-17:00(日祝は9:30-16:00)/年末年始休/入館無料/ www.schi-zenuchi-honcho.com



歴史や技術を資料展示や映像で紹介！ 刃物の里(越前打刃物館)

越前打刃物の歴史や技術をテーマにした学習館。新しい施設で、2018年にオープン。研修棟では打刃物の切れ味や使い心地を実際に体験できる料理教室を毎月開催。刃物の製造機械を展示する工房棟では、製作実演イベントも開催される。

福前市池ノ上町48-6-1 ☎0778-22-1241/9:00-17:00/火曜・年末年始休/入館無料/ www.honchoonozato.com



1979年、伝統的工芸品(金工品)に指定
越前打刃物



市街地・共生エリアの近江越前道沿いには越前打刃物問屋の歴史的な看板が点在。かつてはこの周辺に職人や問屋が集まっていた。(P11)



「千代鶴神社」は越前打刃物の祖・千代鶴国安を祀る。境内には、刃を打つ水を汲んだと伝えられる井戸がある。(P11)



上/鏡りから刃先まで一体化した片端鉋削デザインの刃物(タケフナイフビレッジ)
中/下/優美で繊細な波紋模様が人気の方物(越前刃物ファクトリーストア)



製造実演をはじめ、見学や体験も充実！
タケフナイフビレッジ
越前打刃物の共同工房で、家庭用の包丁からプロが使った道具まで、さまざまな打刃物製品を製造販売。工房内の見学通路から、熟練あふれる職人技を間近に見学することもできる。ペーパーナイフなどの体験教室(要予約)も大人気。
福前市水川町22-91 ☎0778-27-7120/9:00-17:00/年終休/入場・見学無料/ www.takufu-knives.jp

タンス町通り

およそ200mの間に越前箆笥を製造・販売する店などが集まるタンス町通り。江戸後期から指物職人らが多く暮らし、明治の半ばに現在のまち並みが形づくられた。かつて、この界隈にはさまざまな嫁入り道具を扱う店も多く賑わいを見せた。越前市の中心市街地にあり、ノスタルジックな雰囲気が漂う散策にぴったりのエリア。



創業100年を超える老舗も多い



気軽に見学できるお店もたくさん



200mほどの情報あふれる通り



武生まちなかを歩こう

タンス町通りをはじめ、奈良時代に国府が置かれた当時にさかのぼる寺町通りや、北陸の玄関口として栄えた記憶を残す蔵の辻など、武生まちなかエリアは深い歴史が詰まった「むかしまち」。まち歩きでいろいろな風景を見つけよう。



寺町通り
石畳の道沿いに由緒ある社寺が並ぶ。古民家を活かしたお店が増え、人気上昇中。



蔵の辻
大正から昭和初期の木造店舗や蔵が並ぶレトロな空間は、まち歩きに必須スポット。



「ちひろの生まれた家」記念館
絵本作家いわたちひろの生家記念館。ミニギャラリーでは季節毎の企画展を開催。



愛山荘
大正時代の数寄屋風書院の邸宅。回遊式庭園では、四季折々の花や緑が楽しめる。

2013年、伝統的工芸品(木工品)に指定

越前箆笥



2019.10月
NEW OPEN

越前箆笥の新シンボル施設!
(仮称)越前箆笥会館

越前市のまちなか、伝統的な町家通りの家具店や工房が軒を連ねる「タンス町通り」に、越前箆笥のシンボル施設が誕生!
手仕事の粋を極めた越前箆笥の展示・販売をはじめ、指物職人の技を体験できる「親子コースターづくり」などの体験コーナーもある。さらに、越前箆笥の歴史を語る、奈良・法隆寺の国宝「橘夫人厨子」の複製を展示予定。
越前市本町1-9
(旧北陸道からタンス町通りを西へすぐ)



越前箆笥の飾り金具に施されるハートの形。これは魔除けを意味する「猪目」の文様で、飾り金具は越前打刃物の技に由来する。伝統的な指物の技を携り所とする越前箆笥には、打刃物と越前漆器の漆塗りの技も加わり、重厚な存在感を醸し出している。

ところで、箆笥職人たちの本業とは一線を隔すような取り組みが、このほか興味深い。それはお洒落な木製雑貨や思いがけないキャリーケースであったりする。そこには、精巧で緻密な職人技が盛り込まれている。伝統を受け継ぎ、創意と工夫で新たな価値を創り出すことこそ、越前箆笥の真骨頂なのかも知れない。

伝統と創意と工夫の、あわせ技



越前箆笥の職人たちがづくり工房まつ井、三崎タンス店、小箆箆笥



右/斬新な越前箆笥のキャリーバッグ(ファンチャーホリック)
左/越前箆笥づくりの技術を用いた木製小物・雑貨(Niconi・小箆箆笥)

木の厚さなどの木製おもしろ作りで、手軽に指物体験ができる(PEaPAまつ井)